

ティーチング・ポートフォリオ

教員の職・氏名： 教授 原田治幸

所属学科等： 一般教育

作成日： 2022年3月22～24日

目次

- 1 教育の責任
- 2 教育の理念
- 3 教育の方法
 - (1) 教育の目標 ア 教師としての目標 イ 学生に求めること
 - (2) 教育の実践
- 4 教育の成果
 - (1) 学生による授業評価アンケートから
 - (2) 学修成果把握アンケートから
 - (3) 成績の分布状況と出席率
- 5 改善の努力と今後の目標
 - (1) 目標設定の見直し
 - (2) 授業方法の改善
 - (3) FD研修への参加
- 6 添付資料 (エビデンス)

1 教育の責任

私は本学の教員として、令和3年4月に着任し、保育学科の学生を対象に一般教育、専門教育を担当している。令和3年度の担当科目は次のとおりである。

授業科目名 (単位数)	学期・対象学生	必・選	カリキュラムでの位置付け	受講者数
情報機器操作入門(2)	前期 保・1年	選	一般教育、保育士・幼免必修	34人
キャリア総合Ⅱ(1)	前期 保・2年	必	一般教育	45人
キャリアデザインⅡ(1)	後期 保・2年	必	一般教育	43人
保育実践演習Ⅰ(1)	前期 保・1年	必	専門教育、保育資格必修	保1:16人
保育実践演習Ⅱ(1)	前期 保・2年	必	専門教育、保育資格必修	保2:16人
児童文化Ⅰ(1)	後期 保・1年	必	専門教育、保育士・幼免必修	保1:15人
児童文化Ⅱ(1)	後期 保・2年	必	専門教育、保育資格必修	保2:15人

これらの科目のシラバスは、本学所定の形式・要領によって作成し、各学年各学科ごとの冊子（「授業計画」(シラバス)）として全学生に配付している。【添付資料A】

私は上記の授業以外に、令和3年4月に教務課長の発令を受けており、本学教育の円滑な推進のために努めている。

2 教育の理念

本学の教育理念は、創設者である河野タカが定めた「温雅而尚礼節」（温雅にして礼節をたつとぶ）である。学長をはじめ教職員自らが率先して理念を体得・実践することが肝要であり、平素から教職員や学生が自他を尊重し、心穏やかに礼儀正しく接することを心がけている。当然授業においてもこの姿勢が大切であり、始業時・終業時のあいさつなど、教員、学生共々「温雅而尚礼節」を踏まえた授業となる

よう努めている。

学科レベルでは、栄養健康学科は栄養士、保育学科は保育者（幼稚園教諭、保育士）の育成を目的とし、ディプロマ・ポリシーとして以下を掲げている。

- ① 社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- ② 健康と食品・栄養（保育）に関する専門的な知識を身に付けている。
- ③ 調理・栄養（保育）に関する専門的な技能を身に付けている。
- ④ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。
- ⑤ 自分と相手の想いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。

私は主として①、さらに④・⑤に係る学生の資質・能力の向上を目的とした授業を進めており、社会人としての幅広い教養を基礎に、主体的に判断し、地域社会に貢献できる人材を育成することであり、教務課長として、他の教員が円滑に授業展開できるようにすることが、本学教育における私の使命であることを自覚している。

3 教育の方法

(1) 教育の目標

ア 教師としての目標

- ① 凡事徹底
- ② 学生が立派な社会人となる手助けをする。
- ③ 地域社会や業界が求める人材育成を行う。
- ④ 学生の実態に即した教育的な指導と授業を実践する。
- ⑤ ICTの活用をはじめとした新たな教育手法を取り入れる

授業を通じて育てたい態度、資質、能力については、「学修成果把握アンケート」に項目設定している。【添付資料G】

イ 学生に求めること

- ① 全15回の授業への出席。
- ② 始業時・終業時のあいさつの励行。
- ③ 言葉を大切に、場に応じた適切な言葉遣い。
- ③ 発表やグループ討議などを通じた表現力の向上。
- ④ 様々な社会課題に関心を持ち、自己研鑽に励む。
- ⑤ 物事に挑戦しようとする意欲の向上
- ⑥ 組織の一員として働ける総合力の習得
- ⑦ クラウドやモバイル端末などの新たなツールの有効活用

(2) 教育実践

前項の目標を達成するために、授業において次の取組を実践している。

- ① 始業時・終業時の号令と挨拶
- ② 相応しくない言葉遣いを指導
- ③ 異なるテーマ、メンバーによるグループ活動、発表と相互評価【添付資料C、E】
- ④ 授業ごとの取組姿勢と授業内活動に対する自己評価の提出【添付資料B、C】
- ⑤ 授業ごとの学習内容と今後の活用について振り返りシートによる提出【添付資料B、C】
- ⑥ 学生によるグーグルスライドを用いたグループごとの共同編集【添付資料D】
- ⑦ 「話し方・聞き方で人間関係が良くなる」「社会人としての話し言葉」を講義【添付資料D】
- ⑧ 「社会人として知っておくべき雇用関係のキホン」「人と人とのよりよい関係 ～デートDVを知っていますか？～」「年金セミナー」「スペインの文化と乳幼児教育」「ネイチャーゲームの体験と特徴」「下関市の就学前教育・教育施設の現状」「保育者として社会人としての在り方」「桂ゆきとコラボージュ」「インターネットの安心安全な使い方～子どもをネット社会の被害者、加害者にしないために」「未来のお父さんお母さんへ」「災害に備える ～家庭とまちを災害から守る

～」と題して11回の講演・演習等を外部講師により実施【添付資料D】

4 教育の成果

(1) 学生による授業評価アンケートから【添付資料F】

ア キャリア総合Ⅱ

「総合的に満足する授業であった」については、平均評価が3.68/4.00であった。そのほか3.7を超えた評価項目が14項目中9項目、3.8を超えた項目はなかった。「授業のマナーを守りましたか」は3.76であった。

イ キャリアデザインⅡ

「総合的に満足する授業であった」については、平均評価が3.69/4.00であった。そのほか3.7を超え3.8未満の評価項目が14項目中3項目、3.8を超えた評価項目は1項目であった。「授業のマナーを守りましたか」は3.81であった。

ウ 情報機器操作入門

「総合的に満足する授業であった」については、平均評価が3.94/4.00であった。そのほか3.8を超え3.9未満の評価項目が14項目中4項目、3.9を超えた評価項目は8項目であった。「授業のマナーを守りましたか」は3.97であった。

(2) 学修成果把握アンケートから【添付資料G】

ア キャリア総合Ⅱ

開講時に比べて知識・理解・技能が向上した項目の割合は68.4%、修了時のA達成項目の割合は43.9%、授業による「知識・理解・技能」の向上については、「向上した」52.3%、「やや向上した」40.9%、「あまり変わらない」6.8%であった。開校前と終了時を比較するといずれの項目も向上しているが、特に、項目「相手に自分の考えを簡潔に伝えることができる」は1.8から2.3、項目「10年後の自分の姿をイメージできる」1.4から2.4、項目「保育者、社会人として何が求められているか理解している」は1.6から2.5に向上した。

イ キャリアデザインⅡ

開講時に比べて知識・理解・技能が向上した項目の割合は84.6%、修了時のA達成項目の割合は65.8%、授業による「知識・理解・技能」の向上については、「向上した」72.7%、「やや向上した」11.4%、「あまり変わらない」4.5%であった。また、開校前と終了時を比較するといずれの項目も向上しているが、特に、項目「面接で自分を表現し、自分の良さを面接官に伝えることができる」は1.7から2.7、項目「自己研鑽に励み、挑戦しようとする意欲や決意がある」は1.9から2.7、項目「就職後、社会や地域において果たすべき役割を理解している」は1.7から2.8、項目「組織の一員として働く準備ができていく」は1.6から2.7に向上した。キャリア総合ⅡとキャリアデザインⅡを継続して学ぶことで教育成果が明確に向上している。

ウ 情報機器操作入門

開講時に比べて知識・理解・技能が向上した項目の割合は59.8%、修了時のA達成項目の割合は37.1%、授業による「知識・理解・技能」の向上については、「向上した」34.4%、「やや向上した」59.4%、「あまり変わらない」6.3%であった。また、開校前と終了時を比較するといずれの項目も向上しているが、特に、項目「文書の作成や修正などワープロソフト『Microsoft Word』の基本的な操作ができる」は1.6から2.6、項目「見栄えの良い、実社会で使える文書を作成することができる」は1.2から2.2、項目「Gメール、グーグルドライブ、ミーティング、フォームなどのクラウドサービスを活用することができる」は1.2から2.3に向上した。

エ 保育実践演習Ⅰ・Ⅱ、オ 児童文化Ⅰ・Ⅱ

私が主担当である藤井智行講師とともに担当したのは、現在2年生16人、1年生16人と本年度保育学科に最大数のコースである。年齢も性別も考え方も異なるメンバーが協調しながら同じ目標に向かって活動し、一人ひとりの創作力や表現力の向上、協働して作業する力、リーダーシップ・フォロワーシップを身に付けることを目標とした。特に、創作発表会では、豊かな感性と想像力を

育み、「物や人を大切に作る心」を培い、保育の現場で求められる表現力、協働性そして発表を管理運営するノウハウを学び、将来の保育者としての基盤となる資質能力を身に付けることを目的とした。いずれも一定程度達成できたと考えているが、とりわけシーモールホールで行われた創作発表会は好評であった。

成績の分布状況と出席率

授業科目名	秀	優	良	可	不可	科目 GPA	出席率	皆勤学生数
情報機器操作入門	8	17	6	1	0	3.00	94.9%	17
キャリア総合Ⅱ	15	22	7	0	0	3.18	96.1%	30
キャリアデザインⅡ	11	19	8	5	0	2.84	91.9%	16
保育実践演習Ⅰ	5	24	3	1	0	3.00	97.5	28
児童文化Ⅰ	19	7	5	0	0	3.34	95.9	18
保育実践演習Ⅱ	7	23	10	4	0	2.75	97.3	36
児童文化Ⅱ	11	19	8	5	0	2.84	94.3	26

5 改善の努力と今後の目標

(1) 目標設定の見直し

基本的な目標に変化はないが、学生の実態に応じて達成レベルを設定することが必要である。特に、個々の学生に応じた個別の到達目標を指導者が把握することで、上位学生の力量の伸長を図ることが求められている。

(2) 授業方法の改善

学生の実態に応じた90分の授業時間の活用が必要出ることから、1回の授業における場面展開や活動形態のバリエーションを増やすことが必要である。また、話や授業のネタを常に収集し幅が広く奥の深い授業を展開、学生の理解と納得性の高い授業づくりを研究していきたい。特に、covid-19、SDG's、DX、数理・データサイエンス・AI、STEAMなどの現代的なテーマに即した授業の構築が必要である。

(3) FD研修への参加

教育活動の改善にFD研修は不可欠であり、今年度は以下のFD研修に参加した。

教育活動の改善にFD研修は不可欠であり、今年度は以下のFD研修に参加した。

4/1 2020年度後期「学修成果把握アンケート」の集計結果について

5/12 「新型コロナウイルスの基礎」

9/8 2021年度前期「学修成果把握アンケート」について

9/8 「ICTを活用した教育実践例」

(SD研修、付属高等学校との合同研修会)

10/13 令和3年度前期「授業評価アンケートについて」

10/13 令和3年度前期「教員用授業自己点検アンケートについて(報告)」

1/12 「ティーチング・ポートフォリオ」の作成について

2/16 「GIGAスクール構想が目指すものとは」、「小中高の現場におけるICTの取り組み」

3/16 令和3年度後期「授業評価アンケートについて」

2021年度後期「学習成果把握アンケート」について

※全教員の実践・工夫を持ち寄り、実施した研修の成果も表れており、次年度に取り入れたい。

6 添付資料 (エビデンス)

- A シラバス (「授業計画」として学生に配付)
- B 振り返りシートサンプル
- C 授業進度表
- D 授業における配布物等のサンプル
- E 学生による相互評価シート
- F 学生による授業評価アンケート集計結果 (非公開)
- G 学修成果把握アンケート集計結果 (非公開)